

幸福度に関する研究会報告（案）の概要
—幸福度指標試案—

平成 23 年 8 月 29 日
幸福度に関する研究会

1. 幸福度指標作成の意義とたたき台

幸福度を具体的に見えるように各種指標で表したものが、いわゆる「幸福度指標」である。「幸福度指標」とは、個々人の「幸福」をある程度、地域、時系列で比較可能にした物差しであり、評価のためのツールである。

GDPを超えた指標である幸福度指標の作成は、日本だけでなく、欧州、北米、オセアニア、そしてアジアの国々で進んでいる。我が国においては、特に所得の増加にも関わらず主観的幸福感が低いという課題が存在する。昨年閣議決定された、新成長戦略において、幸福度・新しい成長の測定作業が位置づけられた背景には、このような国際的な動向や主観的幸福を巡る課題が存在する。

また、本研究会の開催期間において、東日本大震災が発生した。被災者の方々、社会的に孤立した人々、さらには日本に暮らす多くの人々が、未来の希望や幸福を感じることができるようになるために何を優先すべきかを検討するとき、当研究会において検討している幸福度の考え方や指標が役立つと考え、研究会では、幸福度・社会進歩指標の作成の重要性・必要性について、改めて認識を共有した。

なお、本報告書では、幸福は複雑な概念で、主観的幸福度を中心に据えつつ、主観的幸福度だけではなく、様々な次元から構成されると考える。

2. 幸福度指標の枠組み

研究会では、事務局から以下のような枠組みが提案された。

(1) 参照指標（主観的幸福度）

主観的幸福度は、現在の主観的幸福感を重視しつつ、理想の幸福感、将来の幸福感、人並み感、人生満足度、感情バランスを用いて、多面的に捉える。主観的幸福度を参照指標として、幸福度の次元の設定や他の指標の選択などを行う。

(2) 大枠（フレームワーク）

- 経済社会状況、心身の健康、関係性を 3 本柱として指標化を検討。
- 持続可能性は 3 本柱とは別建てで検討。

(3) 指標化に当たっての留意点

- 既存統計に限定せず、最も相応しい指標を想定して検討。
- 指標の選択においては可能な限り、学術研究の成果を活用。

- 子ども、若者、成人、高齢者というライフステージの違いを勘案して指標を選択。
- 国際的な比較可能性を探求。
- 一つの指標への統合化は実施しない

3. 指標試案

事務局から提案した指標試案の一覧表は別紙1のとおりである。三つの柱の下に設けた次元は、スティグリッツ委員会の成果を準用したものであり、次のとおりである。

- 経済社会状況：①所得と富、②仕事、③住環境、④子育て・教育、⑤安全安心
 - 心身の健康：①身体的健康、②精神的健康
 - 関係性：①個人・家族とのつながり、②地域・社会とのつながり、③ライフスタイル
- いずれにせよ、本指標試案は、一案に過ぎず、かつ、現在利用可能でない指標も多く含んでいる。関心を持っていただいた各位からの積極的なコメントをいただいた上で、改訂していくこととしたい。なお、持続可能性については、別途検討が進んでおり、指標の具体的な提案は行わない。

4. 統計整備の推進

主観的な統計や、少子高齢化等の進展やワークライフバランス等に対応した統計の整備や、企業活動の変化や働き方の多様化に対応した労働統計の充実が、我が国独自の幸福度・社会進歩を測定する指標の開発には必要である。このため、既存の統計の修正や追加の統計調査（例えば縦断調査）の実施などを検討する必要がある。

5. 内外における議論の推進

今後は OECD を中心とした国際的な枠組みでの議論や、国内の幸福度に関心を持つ自治体との意見交換などを通じ、本報告書を活用しつつ、内外で幸福度指標に関する議論が活発に行われることを期待したい。

幸福度指標試案

別紙1

主観的幸福度	主観的幸福感、理想の幸福感、将来の幸福感、人並み感、人生(生活)満足度、感情バランス
--------	--

大枠	経済社会状況					心身の健康		関係性								
ライフステージ\次元	所得と富	仕事	住環境	子育て・教育	安全・安心	身体的健康	精神的健康	個人・家族のつながり	地域・社会とのつながり	ライフスタイル						
子ども・若者	子どもの貧困率	ニート数		学校生活満足度	子どもに対する暴力	乳幼児死亡率		孤独を感じる子どもの割合	ひきこもり数							
		フリーター数		高校中退率												
		若年失業率		認知的能力(PISAの得点)												
				いじめの認知件数												
成人(一般)	一人当たり実質調整済み可処分所得	長期失業率	一人当たり部屋数	学歴	意図的殺人率	自己評価の健康	精神・神経疾患有病率	必要なときには頼れる人がいる人の割合	制度への信頼度	自由時間						
	一人当たり実質保有資産	仕事の満足度	ホームレス数	子育て満足度	自己申告の犯罪被害率	自己評価の長期疾患率	自殺率				ボランティア活動の時間	時間配分満足度				
	物質的幸福の主観的評価		住宅費の負担度	生涯学習参加率	安全・安心感	平均寿命	ストレスを感じるものの割合				投票率	長時間労働者率				
	相対的貧困率		住宅への満足度	待機児童数									希死念慮	自己有用感	有給休暇取得率	
			基本的な施設の有無													K6(こころの健康状態を把握した尺度数値)
			居住地域の空気・水への満足度													
	緑空間へのアクセス															
高齢者	老後の生活費不安	高齢者失業率					自己評価の日常生活動作の支障	年齢別認知症発症率	孤独死への不安	社会的接触頻度						
	買い物の不便さ	高齢者労働力率										高齢セルフネグレクト者数				
指標数	7	7	7	8	4	5	6	4	7	4						

持続可能性	
-------	--